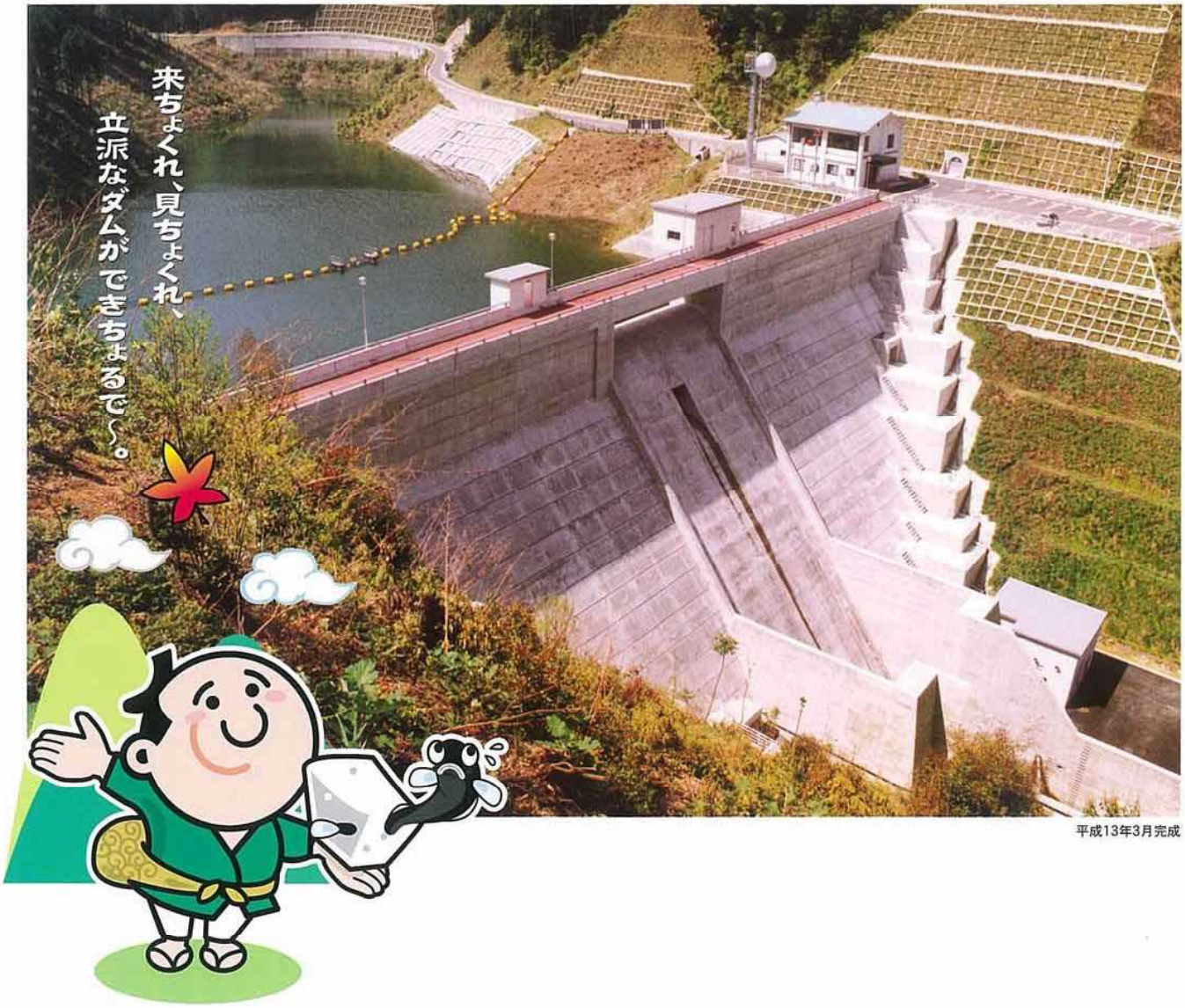
生活貯水池

野津ダム

NOTSU DAM

垣河内川河川総合開発事業

豊の国、水と、緑と、民話の町、野津町に新しいダムが完成しました。



平成13年3月完成

大分県臼杵土木事務所

〒875−0041　臼杵市大字臼杵字洲崎72−254

TEL(0972)63−4136　FAX(0972)63−7885

部落差別につながる
!
しない決心 させない勇気
身元調査追放

野津ダムの役割

野津ダムは、大野川水系垣河内川の大分県臼杵市野津町大字垣河内字山手内地先に多目的ダムとして建設され、垣河内川総合開発の一環をなすものである。

ダムは、重力式コンクリートダムとして高さ34.9m、総貯水容量331,000㎥、有効貯水容量296,000㎥で洪水調節、既得取水の安定化、河川環境の保全及び、水道用水(2,410㎥/日:0.028㎥/s)の供給を目的に建設された多目的ダムである。

洪水調節

垣河内川の洪水を軽減します

既得取水の安定化、河川環境の保全等

豊かな実りを支えます

水道用水の確保

安定供給します

流域の概要

垣河内川は、大分県臼杵市野津町に位置し、その源を冠岳(標高617.5m)に発し、山間部を北流後、西に向きを変え野津川に合流する流域面積24.20km²、流路延長9.70kmの1級河川である。

垣河内川流域は、温暖多雨の気候を示し、降雨量は梅雨期、台風期に多くその時期の豪雨により災害が多く発生している。

一方、野津川は、垣河内川を合流させ、さらに15.5km流下後、大野川へ合流する。

野津川の水利用は古くから行われており、かんがい用水、水道用水の水源として利用されている。また、野津町の市街地は野津川の沿川に形成されている。

流域の年平均降雨量は1,900mm、年平均気温は20.4℃である。

事業の経緯

平成 3年度	建設事業採択
平成 5年度	ダム軸決定
平成 7年度	用地補償妥結、工事用道路着手
平成10年度	ダム本体着手
平成11年度	管理設備着手
平成12年度	ダム完成、試験湛水開始

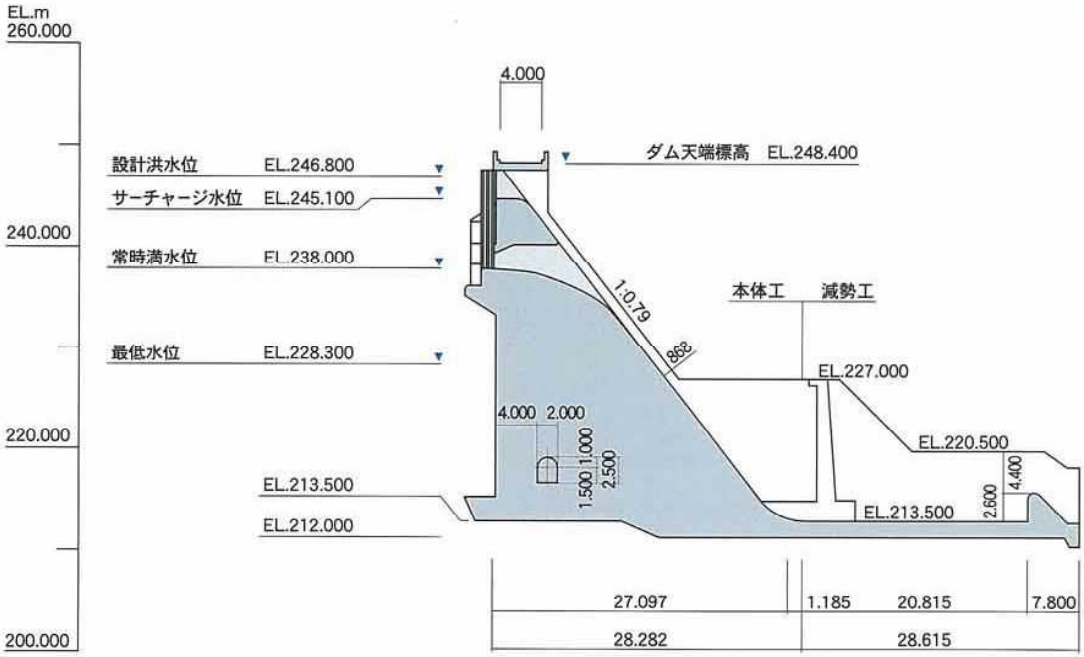
施設概要

(1) ダムの諸元
- 位置　：左岸　大分県臼杵市野津町大字垣河内字山手内地先
- 　　：右岸　大分県臼杵市野津町大字垣河内字山手内地先
- 型式　：重力式コンクリートダム
- 堤高　：34.9m
- 堤頂長：95.0m
- 堤体積：32,000m³
- 非越流部標高：EL.247.8m

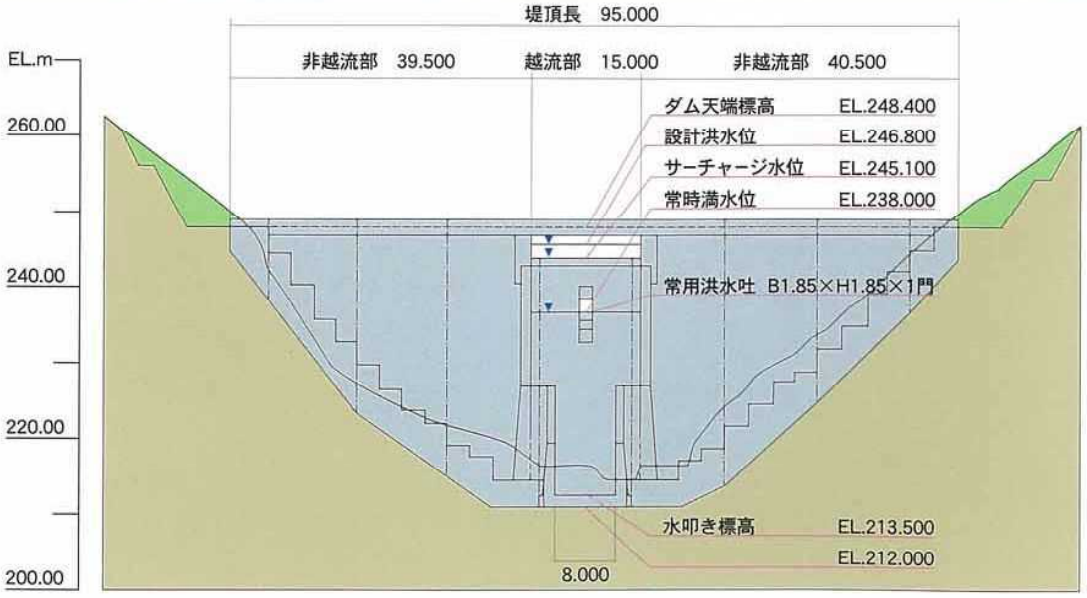
(2) 貯水池
- 集水面積　：1.64km²
- 湛水面積　：0.03km²
- 総貯水容量　：331,000m³
- 有効貯水容量：296,000m³
- 常時満水位　：EL.238.0m
- サーチャージ水位：EL.245.1m
- 設計洪水位　：EL.246.8m

(3) 放流設備
- 常用洪水吐き　：オリフィスによる自然調節　高1.85m×幅1.85m×1門
- 非常用洪水吐き　：自由越流堤　高1.70m×幅15.0m×1門
- 計画高水流量　：31m³/s
- ダム設計洪水流量　：91m³/s
- 低水放流施設　：口径600mm×1条

越流部標準断面図



下流面図



流域一覧図

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地図を複製したものである。(承認番号 平11九複、第 237 号)」

湛水前(上流から)

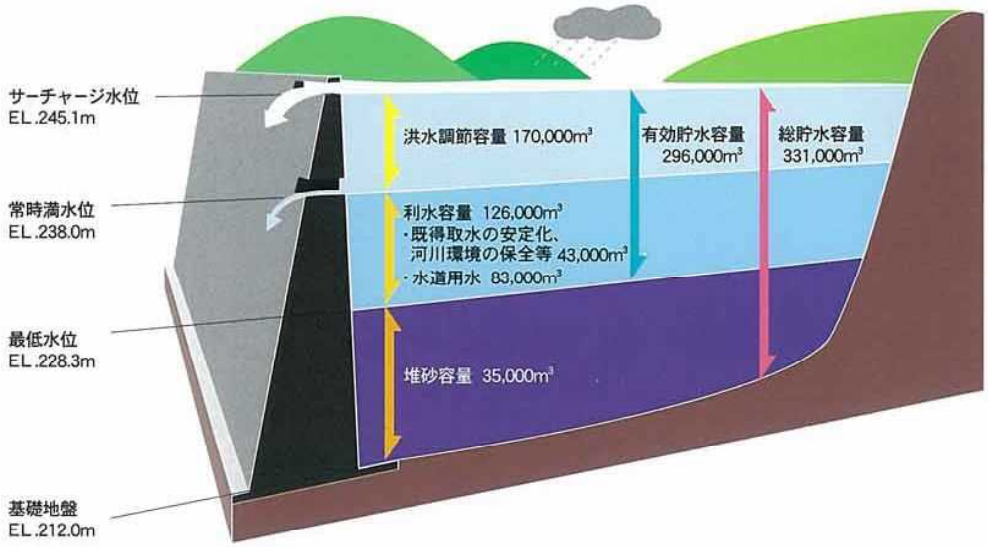
周辺概要図

管理棟

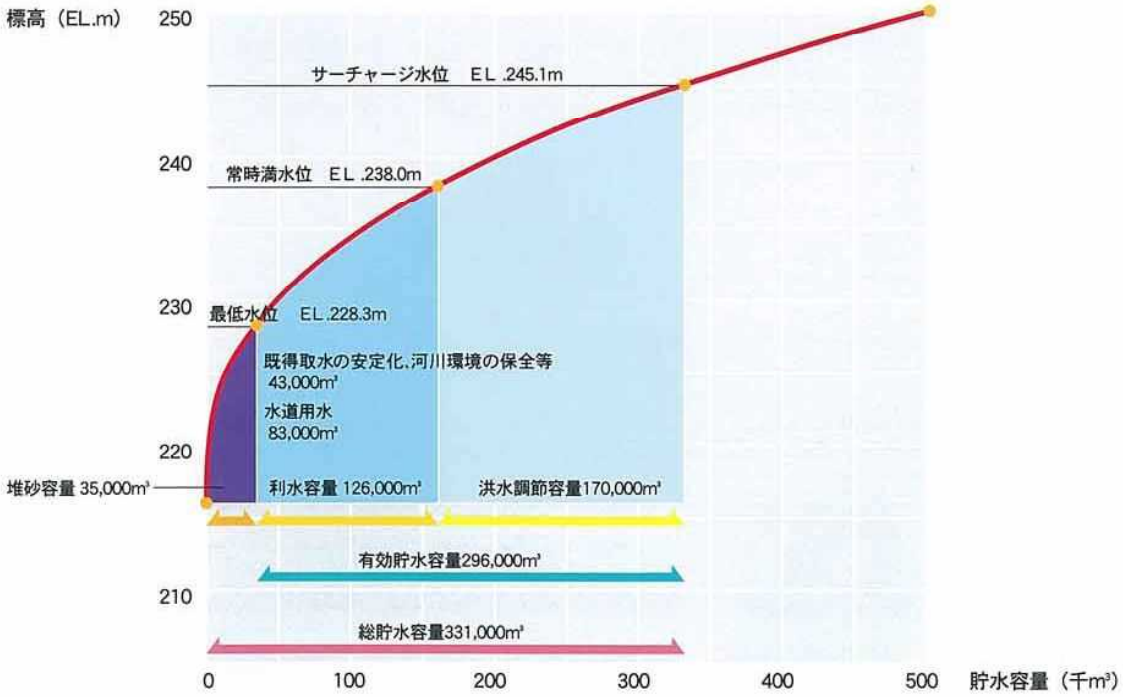
ダム操作卓

本体施工状況

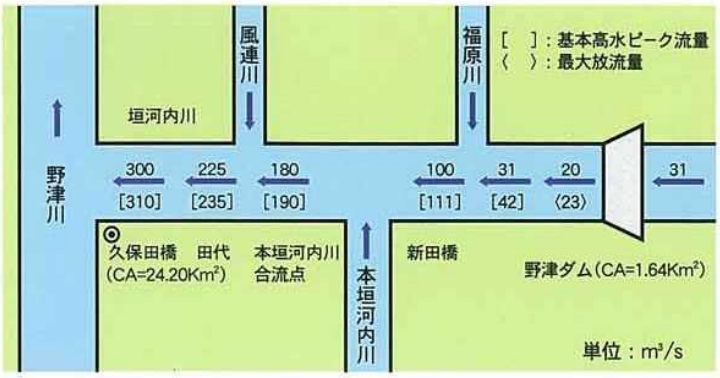
貯水池容量配分図



野津ダム貯水位～容量曲線



計画高水流量（野津ダム～久保田橋）



民話の里・野津町

野津町は大分県の南部に位置し、人口 9756 人(H16年6月現在)、面積139.19km²の緑あふれる町です。大野川の支流野津川や垣河内川、吉田川などの河川に恵まれ、東九州の交通の要所として昔から、宿場や市場として栄えてきました。

日本三大鍾乳洞のひとつに数えられる「風連鍾乳洞」、大友宗麟の影響を受けた「キリスト教文化遺跡」そして、野津町といえば「吉四六さん」が有名です。

大分県の民話の代表的な存在である吉四六さんは、実在の人物で本名を廣田吉右衛門といいます。廣田家は代々小庄屋を勤め。苗字帯刀を許された由緒ある家柄でした。
吉四六さんは江戸時代初期に生まれ、88歳で亡くなったといわれていますが、廣田吉右衛門の名は代々世襲されており、11代まで続いています。 そのうち何代目が吉四六さんなのかはわかっていません。しかし、持ち前のとんち・奇才から多くの「吉四六ばなし」が生まれ、現在にいたるまで広く語り継がれています。

吉四六話

吉四六ばなし
天のぼり

田植えの時期になって、田をならす代掻きが始まりましたが、馬のない吉四六さんは代掻きができません。そこで、田んぼに高いはしごを立てて「明日、わしは天に昇ることになったけん、みんな見にきちょくれ」とふれまわりました。
翌日、村の人々が集まると「はしごの下で天のぼりをはやしちくりい」といい、はしごを昇り始めました。村人は言われた通り、はしごのまわりをぐるぐる回りながらはやしたてました。
田が多くの人の足でじゅうぶんに練られた頃、吉四六さんがはしごから降りてきました。

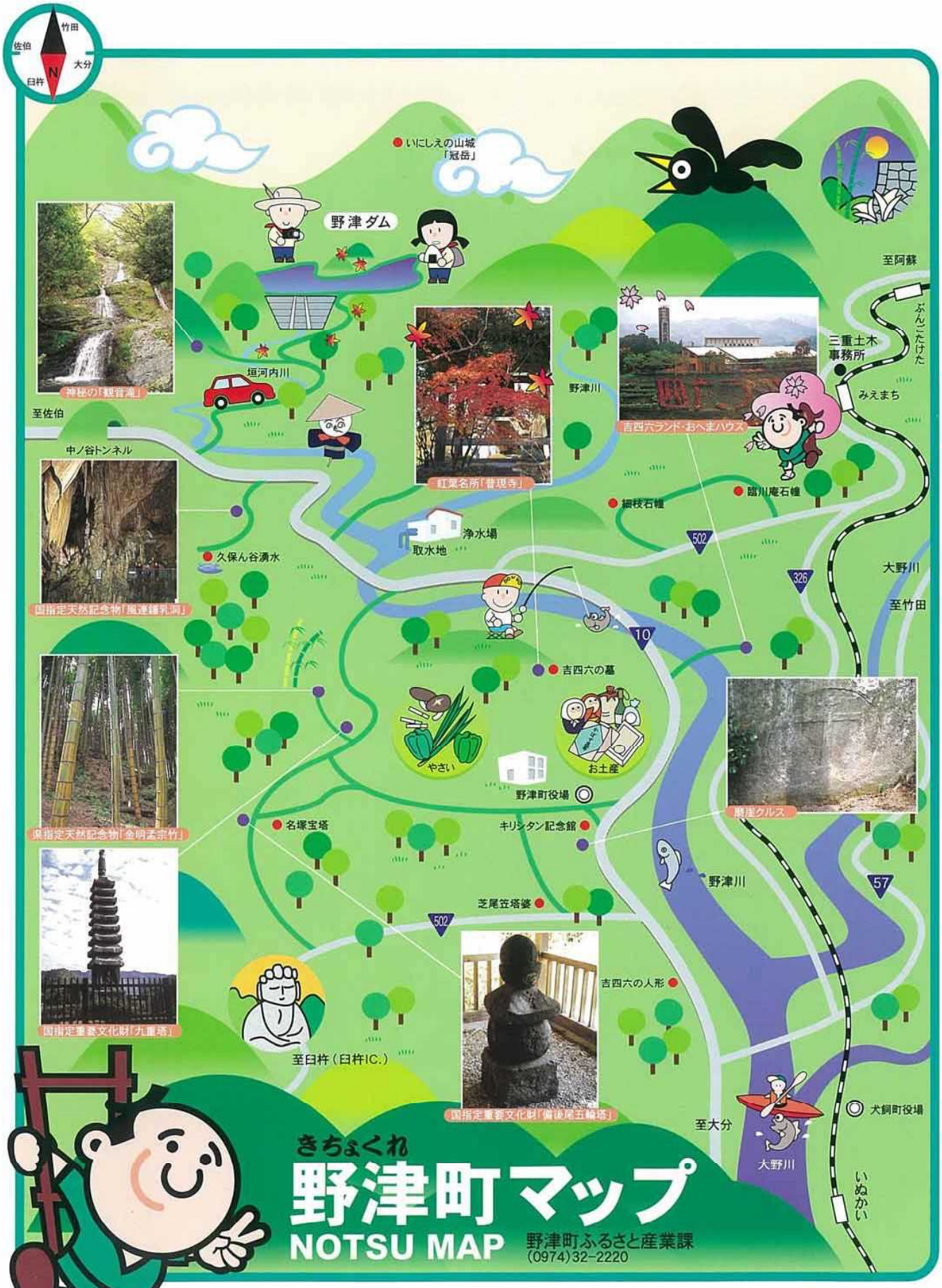
「みんなが危ねえちいうから今日はやめじゃ」・・・
村人が帰った後の田は、すっかり田植えの準備が出来ていました。

吉四六ばなし
十三里

三佐(大分市鶴崎)の塩を竹田で売ればもうかると聞いた吉四六さん。さっそく三佐で塩を仕入れて、竹田へ向かいます。出発する時「三佐から竹田までは何里かえ」と尋ねると「十三里(52Km)じゃ」という答え。しばらく歩いて再び尋ねます。「三佐から竹田までは何里かえ」「十三里じゃ」吉四六さんが「三佐から竹田」と聞くので、いくら歩いても答えは「十三里」です。日が暮れ宿に泊まった吉四六さんは翌朝、また尋ねてみました。「竹田までは何里かえ」「何里というほどもねえ。十町ほどさきじゃ」・・・。三佐から、と言い忘れていた吉四六さんは、びっくりして言いました。
「寝ちょん間に、竹田が近うなった。」

吉四六ばなし
馬に加勢

山にたきぎを取りにきた吉四六さんは、たくさんの木を伐って、いくつもの束をつくって馬の背に乗せました。荷が重いので馬はよろよろ。それを見た吉四六さんは「こりゃむげねえのう(かわいそうに)。よし、わしがちっと加勢しちゃろう」と、たきぎの束を二つほど降ろして自分でかつぎました。ところが、今度は吉四六さんが重い荷でよろよろ。そこで「アオよい、おれが荷を加勢しちゃったんじゃけん、そんかわりにわしを乗せて行っちょくれ」・・・そう言うと、吉四六さんはたきぎを背をったまま馬に乗ってしまいました。これでは馬がたまりません。前よりも一層へとへとになって、山を降りていきました。



ACCESS

大分市から(車)・・・約45分　犬飼町から(車)・・・約10分　臼杵市から(車)・・・約25分　佐伯市から(車)・・・約40分
大分空港から(車)・・・約120分　大分自動車道米良インターから・・・約30分

CALENDAR

4月(上旬)・・・吉四六まつり
7月(下旬)・・・久保ん谷湧水まつり
8月(第1日曜)・・・西神野風流杖踊り
8月(中旬)・・・吉四六の夏祭り
11月(上旬)・・・吉四六の里のふるさと振興祭
11月(下旬)・・・普現寺の紅葉のライトアップ

平成16年7月製作